

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立清泉小学校

<p>教育目標(めざす児童生徒像)</p> <p>豊かな人間性を培い 自ら学び たくましく生きる 清泉の子どもを育成する</p> <p>よく考える子ども 助け合う子ども やりぬく子ども</p>	<p>今年度の指導の重点</p> <p>基礎学力の充実をはかり、自主的に取り組む学習態度を育てる。 縦割り活動をととして人間関係の改善・深化を図り、豊かな心・健やかな体を育成する。 指導力向上と授業改善に努め、教育力のある学校をつくる。 学校を地域に開き、信頼される学校を目指す。</p>
--	--

<p>調査結果について(調査結果において明らかになったこと)</p>	
<p>【学力状況調査の結果】 全国(小・中学校)</p> <p>国語Aでは、文のつながりを考えたり、話し合いの観点に基づいて情報を関係付けたりするなど「話すこと・聞くこと」の領域において、全国平均よりかなり高い。国語Bにおいても、「話すこと・聞くこと」の領域において全国平均より上回っている。国語A・Bでは、内容ある程度読み取ることではできても、当てはまるものが何か判断するのが難しいなど「読むこと」に課題がある。また、キーワードを使いながら、条件に合わせて説明することが課題である。</p> <p>算数Aでは、四則混合の式など「数量関係」の領域において全国平均よりかなり高い。立方体の体積をもとめるなど「量と測定」の領域も全国平均を上回っている。割合が1より小さい場合の比較量を求めるなど「数と計算」領域においては、全国平均より下回っている。</p> <p>算数Bでは、どの領域も全国平均よりやや低い。答えを導くまでの過程を言葉や式を使って説明していくことが課題である。</p> <p>県(中学校)</p> <p>国語・算数では、領域別にみると、全国学力状況調査と同じ傾向にある。</p> <p>社会科では、「思考・判断・表現」の領域は県平均よりかなり高いが、「資料活用の技能」「知識・理解」については県の平均を下回っている。</p> <p>理科では、どの領域も県平均を下回っている。条件や方法を答えるような記述式の問題が課題である。</p> <p><例></p> <p>「標識」の読み(本校100%、県91.2%)「該当」の読み(本校90%、県84.6%)「皿」の漢字(本校100%、岡山県98.1%)</p> <p>・算数Aで、異分母どおしおのたし算(1/3 + 2/5)の正答率が高い。(本校100%、県91.6%)</p> <p>・算数Bでは、示された分け方でスプーンを分けたとき、残りの30人にスプーンを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く問題の正答率が低く、言葉と式を使って説明することに課題が見られる。(本校0%、岡山県25.5%)</p>	<p>【学習状況の結果】</p> <p>授業中自分の考えを伝えたり、発表したりできていると感じている児童の割合が高い。</p> <p>家庭学習をする割合は県平均より高いが、1日あたりの勉強時間が少ない。(特に土曜・日曜などのお休み)</p> <p>家庭学習はするが、予習・復習を取り入れたりするまでには至っていない。</p> <p>外遊びをよくするが、テレビ・DVD・ゲームの時間も多い。</p> <p>自分に良いところがないと感じている児童の割合が高い。</p> <p>家族や友達によく悩みが相談できている。</p> <p>ほとんどの児童が、地域の行事に積極的に参加できている。</p>

<p>成果と課題</p> <p>国語の「話すこと・聞くこと」の領域が特に高いのは、昨年度から校内研修で取り組んでいる、ペア学習やグループ学習を入れた授業づくりの成果とも考えられる。自分の考えを発表し、お互いに聞きあうなかで、子どもたちの学ぶ意欲を今後もさらに高めていきたい。</p> <p>自分の考えをまとめるために、毎日の授業の中で、できるだけ自分の考えをノートに書く活動を取り入れてきた。自分の考えをまとめることには、少しずつ慣れてきたが、今後は授業の中で、キーワードや条件を入れて説明する場面を設定していく必要がある。</p> <p>記述式の問題では、無回答もみられた。読み取る力や、あきらめず粘り強く取り組む姿勢を培うために、今後もさらに、成就感や達成感を味わえる取り組みを工夫したい。また、基礎学力の定着をはかるため、県の到達度テストなど類似問題も積極的に取り入れていく必要がある。</p>	<p>課題に対応した改善方法</p> <p>(すぐに取り組む内容)</p> <p>教育課程の工夫</p> <p>朝学習の継続・・・計算等の習熟や朝読書に取り組む。</p> <p>補充学習の実施・・・2学期より5・6年生全員を対象に放課後算数教室を実施する。 各担任による個別指導を継続する。</p> <p>音読の取り組み・・・音読カードを作成し、全校で毎日の課題として音読に取り組む。</p> <p>(中・長期的に取り組む内容)</p> <p>授業改善・授業の充実</p> <p>「岡山型学習スタンダード」を活用する。</p> <p>校内研修を中心に、問題解決に向けてのペア学習・班学習、自分の考えをノートに書き発表するなどに取り組む。</p> <p>家庭学習の取り組み</p> <p>「家庭学習の手引き」を利用して、学習の方法や内容を児童や保護者に浸透させる。</p> <p>望ましい自主学習内容を指導したり、好事例を紹介したりするなどして、自主学習を促す。</p>
--	--

<p>取組の検証方法及び検証時期</p> <p>校内研修で定期的に取り組みの交流をする。</p> <p>児童へのアンケートを実施する。(学期ごと)</p> <p>「生活アンケート」を実施する。(学期ごと)</p>	<p>達成目標(数値目標)</p> <p>算数Aの点数を、次年度調査までに、県平均以上にする。</p> <p>家庭学習を1時間以上行っている児童の割合を、次年度調査までに、本年度の10パーセント上げる。</p>
--	---